

# 北摂SATOYAMA国際セミナー

## 里山を未来につなぐ

～里山保全活動の活性化と次世代への継承～

日時 平成30年 11月10日(土) 12:45～17:00  
場所 宝塚ホテル すみれの間 (宝塚市梅野町1-46)  
内容 基調講演・海外報告・パネルディスカッション  
定員 100名 ※要申込 (先着順) 参加費 無料



## 開催趣旨

「北摂SATOYAMA国際セミナー」は、国内外への北摂里山の魅力の発信の強化と、持続的な保全に向けた取り組みや新たな里山の利活用等についての検討を進めるため、平成26年度以降、国際機関等と連携して開催している。

5回目となる今回は、“里山を未来につなぐ～里山保全活動の活性化と次世代への継承～”をテーマに、里山の保全活動を維持発展させていくための国内外の取組事例（成功事例）を学び、里山保全活動の活性化と新たな担い手確保の方策を考える。

## 講師

### 今森 光彦（写真家）

1954年滋賀県生まれ。大学卒業後独学で写真技術を学び、1980年よりフリーランスとなる。琵琶湖を臨む田園にアトリエを構え、自然と人との関わりを「里山」という概念で追う一方、熱帯雨林から砂漠まで世界各国を訪ね、取材をつづける。また、BSプレミアム等の番組にも出演、里山での暮らしや魅力について積極的に発信している。主な受賞歴に、木村伊兵衛写真賞、日本写真協会年度賞、毎日出版文化賞、産経児童出版文化賞、土門拳賞などがある。



### パタカ・ムーア（テ・ヴァナンガ・オ・マトゥア大学講師・研究員、 ニュージーランド）

ニュージーランドの原住民族のマオリ族ンガティラウカワ氏族に属する。

長年にわたり、ンガティラウカワ氏族の言語と文化の再活性化を目標に、研究及び教育活動に従事するなかで、特に自然環境の保護に着目する。活動の根源には、森羅万象(しんらばんしょう)が繋がっているというマオリ族の世界観があり、人間にはこの繋がりを大切にする責任があるという考えがある。



### ジャンバトブデン（ブータン王立大学国民総幸福量研究所 マネージャー、ブータン）

2003年にインド北ベンガル大学の学士号取得、2012年にオーストラリア・ニューキャッスル大学大学院修士号（社会変化・開発）。ブータン王立大学国民総幸福量研究所にマネージャーとして在職。持続可能な開発、環境保全、国民の健康管理、また、水資源管理など多岐にわたって従事。国民の生活レベル向上、持続可能な発展及び国民総幸福量の達成へ向けた取り組みに参加している。



## パネルディスカッション（里山サミット）

### コーディネーター

### 中瀬 勲（兵庫県立人と自然の博物館館長 兵庫県立淡路景観園芸学校校長）

大阪府立大学農学部卒業（70年）、同大学院農学研究科修士課程修了（72年）、同大学助教授、カリフォルニア大学客員研究員、兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科長、兵庫県立淡路景観園芸学校校長（2009.4-2011.3）、兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授、兵庫県立人と自然の博物館副館長を経て、現職。



### パネルディスカッション参加団体

#### 認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会 [茨城県土浦市]

1989年任意団体として設立、2010年認定特定非営利活動団体の認定を受ける。茨城県土浦市で市街地近郊における100haの里山保全を行うボランティア団体であり、日本における里山保全の先駆けとなった。会員数約400名、理事長：及川ひろみ、2005年「ふるさとづくり賞」内閣総理大臣賞受賞

#### NPO法人里山倶楽部 [大阪府南河内郡河南町]

1989年に前身体、1995年に任意団体設立、2002年に法人格取得。「好きなことして、そこそこ儲けて、いい里山をつくる」を理念に里山保全活動を実施。2016年から「新しい“里山的”生き方・暮らし方の提案」を新理念として活動展開。主な活動地は大阪府南河内郡河南町、会員数約120名、代表理事：西村良一

#### NPO法人上山高原エコミュージアム [兵庫県新温泉町]

2004年設立、兵庫県北部の扇ノ山山麓に広がる上山高原などを博物館ととらえ、地域の資産を保全・再生する「上山高原エコミュージアム」の取り組みを通じ、自然を守り育み、自然と共生してきた地域の智慧を活かした地域交流により、自然の次世代への継承と地域の活性化をめざしている。会員数約100名、代表：中村幸夫、2014年自然環境功労者環境大臣表彰受賞

#### 櫻守の会 [兵庫県宝塚市]

1999年設立、笹部新太郎氏没後荒れ放題であった「亦楽山荘」（えきらくさんそう）が、1999年宝塚市の里山公園「桜の園」として再出発した。このとき行われた山桜植樹会の参加者が中心となり発足。会員数約120名、代表：土井喜夫、2016年地域環境保全功労者環境大臣表彰受賞



テーマ “里山を未来につなぐ” ～里山保全活動の活性化と次世代への継承～

日時 11月10日(土) 12:45～17:00

場所 宝塚ホテル すみれの間 (宝塚市梅野町1-46)

内容 12:50～ 基調講演

「里山の魅力」 今森 光彦 (写真家)

写真集「里山物語」やNHKスペシャル等で里山に関する珠玉の映像を発表してきた写真家が、自ら撮影した映像も紹介しながら、里山に惹かれた理由や里山が日本人の文化や感性に与えた影響など「里山の魅力」について語るとともに、里山を「未来の風景」として維持していくための課題を提起する。

13:50～ 海外報告

● パタカ・ムーア (テ・ウァナンガ・オ・マトゥア大学講師・研究員)

「マオリ族の世界観と生態系の保全 ～伝統の次世代への継承～」

ニュージーランドの原住民族マオリ族の伝統、文化、世界観の次世代への継承に焦点をあてつつ、自然環境と人間社会のあり方を探求する次世代の育成、また現地コミュニティ（マオリ族ではない住民を含む）との対話と連携の必要性のなかで、具体的な活動の計画と実施、成果及び課題等について報告する。

● ジャンバ・トブデン (ブータン王立大学国民総幸福量研究所マネージャー)

「持続可能な国土開発と国民総幸福量 ～未来を担う次世代の育成～」

ブータン王国特有の「国民総幸福量」を念頭に、国土のほとんどが山岳地のブータンにおいて、林業、農業、インフラの整備等と持続可能な開発目標の両立へ向けた取り組みについて報告する。またグローバル化が生む社会変化と古い文化、伝統などの次世代への継承活動が直面する課題に着目する。

15:05～ パネルディスカッション

(30)

● コーディネーター

中瀬 勲 (兵庫県立人と自然の博物館館長・兵庫県立淡路景観園芸学校学長)

● パネリスト

- ・パタカ・ムーア [テ・ウァナンガ・オ・マトゥア大学講師・研究員]
- ・ジャンバ・トブデン [ブータン王立大学国民総幸福量研究所マネージャー]
- ・及川 ひろみ [認定NPO法人穴塚の自然と歴史の会理事長]
- ・寺川 裕子 [NPO法人里山倶楽部理事]
- ・馬場 正男 [NPO法人上山高原エコミュージアム事務局長]
- ・近藤 茂 [櫻守の会副代表]